

## 第1回 県立淡路島公園・あわじ石の寝屋緑地あり方検討会

1 日時 令和7年6月11日（水）15:30～17:00

2 場所 淡路ハイウェイオアシス やまもも

### 3 出席者

#### (1) 委員

高田知紀委員、澤田佳宏委員、米山正幸委員、山本正彦委員、小南廣之委員、  
関美恵子委員、坂田隆二委員、伊東範尚委員

#### (2) オブザーバー

淡路島公園・あわじ石の寝屋緑地管理事務所、ハイウェイオアシス管理事務所、  
洲本土木事務所

#### (3) 事務局

公園緑地課

### 4 内容・議題

#### (1) 開会

#### (2) 協議事項

- ① 淡路島公園・あわじ石の寝屋緑地について
- ② 県立都市公園のあり方検討会について
- ③ 県立都市公園における基本的な考え方について【自然環境保全・活性化】

### 5 議事要旨

#### (1) 開会

- 事務局より、当検討会を公開で実施し、議事録を県HPで公開することを説明。
- 事務局より委員全員出席のため定足数を満たしており、会議が成立していることを報告。
- 委員の互選により高田委員を会長に選任。

#### (2) 協議事項

##### ① 淡路島公園・あわじ石の寝屋緑地について

事務局より【資料1】、【資料2】に基づき説明。

- 資料1のP9に記載の自然環境調査は、継続的に行っている調査か。（高田会長）
- 平成29年度の一度きりの調査である。（事務局）

- 平成29年度から今日までの間に公園の使い方が変わっていることによって、環境や生態系にどういった影響があるのか、あるいは生態系そのものが、人為的なインパクトがなくても、経年で変わる可能性があるが、そういった変化があるのか。今後、環境のモニタリングの頻度が課題になってくると思う。  
(高田会長)
- 環境調査は、過去に2回実施したかと思う。1回目は地域環境計画が実施し、2回目は園芸学校の先生方と実施したと記憶している。(坂田委員)
- 2回目の調査は本格的な調査ではなく、必要などころのみを調査したと思う。図面などに落とし込んだ資料が残っていないため、調査結果を今回の資料に反映することができていない。(事務局)
- かなりの予算が必要であるという理由から、環境調査がきちんとおこなわれず、調査内容が乏しいのではないかと感じている。(山本委員)
- 今後、あり方検討を実施するうえで、いかに公園の環境を把握するかは重要なポイントになってくる。予算が必要であることは確かだと思うが、お金をかけずに意味のある調査方法はないかといった内容を議論することもこれからの重要なテーマになってくる。(高田会長)

## ② 県立都市公園のあり方検討会について

事務局より【資料3】、【資料4】に基づき説明。

- 今回の会は、県民や淡路市民、地域住民、子どもたちの将来を考えるうえで、非常に大事な場だと認識している。ただ、検討結果を公園運営に反映するための道筋がわかりにくいと感じる。この会で検討した結果をどのように今後の公園運営に反映していくのかをしっかりと抑えてもらいたい。(山本委員)
- これまで、まちづくりや公園のあり方についての議論に参加してきた感じているが、メンバーが固定された会議だけで全てのことを決めて、明文化することは難しい。公園と様々な関わり方をしている人達の声を聞き、柔軟に公園運営に反映させる仕組みを構築することも大事。このあり方検討では、みんなが共有できるビジョンや方向性を描いて、それを具体的に実現していくための仕組みづくりが成果になるとイメージしており、ここで決めたことを全て明文化しなければならないということではない。みんなが同じ方向を向くための考え方を共有し、さらに色んな人の声を聞くための仕組みをどのように実現するのかを議論するのがこの場。あり方検討会後、検討内容をどのように公園運営に落とし込み、実践していくのかについても議論しながら共有した方がよい。どこまで議論し、明文化し、今後の継続協議とするかもこの場で話し合っていく必要がある。(高田会長)
- 管理運営協議会以外のメンバーが参加することで、新たな意見が出てくるのではと思うが、あり方検討会のメンバーは固定されるのかといった疑問もある。もっと色んな人の声を聞いたほうがよいのではないか。(山本委員)
- 淡路島公園は子育てのとき利用させてもらっていた。あわじ石の寝屋緑地は、

一度も訪れたことがないが、資料を見る限りビオトープがあるなど、子育てにおいて必要だと感じる要素があることを知った。ぜひ子育て世代の方にも広めたいと思う。(関委員)

- 子育て世代にも公園を利用してもらうことは、色んな人に参加してもらい色々な使い方をする人の声を公園運営に反映していくべきじゃないかという意見にも繋がる。(高田会長)
- 公園に関する情報が共有されているかどうかで、公園に対する考え方も変わってくる。(高田会長)
- あり方検討会で決めた方針の中で、公園整備が必要となった場合、県がどの程度予算を組むのか不透明な部分がある。(坂田委員)
- 県と公園を利用する事業者、お互いに情報共有できる範囲で、情報共有しながら今後議論できればと思う。(高田会長)
- 淡路島公園は無料で利用できる部分と有料で利用できる部分がある。この仕組みが他公園との大きな違いである。また、広範囲で利用できる公園であり、子どもたちの遠足などで利用する場合、非常に良い場所である。他公園と違った特色を生かしていくような形で検討できたら良い。(小南委員)
- あり方検討会では、各公園の違いを許容し、それぞれの個性や強みを大事にすることが、資料に記載されている。したがって、まずは公園の強みが何かを出し合い、さらにそれらを伸ばしていく方向性とその強みを伸ばすためにクリアすべき課題の解決に向けた議論を行いたい。(高田会長)

### ③ 県立都市公園における基本的な考え方について【自然環境保全・活性化】

事務局より【資料5】【資料6】に基づき説明。

- 淡路島公園の樹木の場合は、樹木を切ることで自然環境が良くなるという場所がかなりある。淡路島公園の特徴にあわせて、資料5のP2の(2)「実際に樹木伐採を行う際の合意形成のルール設定」と(3)「樹木伐採に関する情報発信のルール設定」のうち、樹木伐採と記載している部分を生態系改変に変更すべき。(澤田委員)
- 承知した。ゾーニング図についても、樹木伐採に特化したものでなくても良いと考えている。(事務局)
- 淡路島公園は地域の名所となる部分もあり、あわじ石の寝屋緑地についても田んぼが残っているほか、貴重な生き物も生息している。それらを考慮して議論していきたい。(小南委員)
- 利活用の観点で、国営公園と比較すると、淡路島公園はイベントを実施したい団体の参入が難しいと感じている。今後の議論の内容となるかと思うが、利用できるエリアを分かりやすく明示する必要があるのではないか。(坂田委員)
- 公園は無料で利用できる場所であることに意味があると思う。お金を払わなければならない場所とのバランスをしっかりと議論したい。(小南委員)

- イベントの開催やアニメパーク構想のために、公園内の様々なエリアを使って良いというわけではなく、自然環境保全の意味合いからも、ゾーニングが必要である。また、外来種が発生しているエリアもあり、そのあたりにも注目しながら、自然環境を守らなければならない。(山本委員)
- 淡路島公園のゾーニング区分については、既に施設や集客施設もあるため、あり方検討会の中で協議する必要がある。(高田会長)
- 民間活力で集客を高めていく場所と公共の公園として利用価値を高めていくための場所を切り分けて考える必要がある。検討事項の中で、公共の公園として高めていくための議論がどこに当てはまるかも考える必要がある。(澤田委員)
- 自然環境を保全するエリアと集客を高めていくエリアを一体的に考えることで、相互にいい作用を生むような公園の仕組みを考える必要がある。(高田会長)
- 淡路島公園とあわじ石の寝屋緑地は異なる性質を持っているので、分けて検討したほうが良いのではないか。(米山委員)
- 議論の中で、分けて考えるべき事項が出れば、別々で考えることもありえる。(高田会長)
- 淡路島公園は島外から来られる方や、子育て世代の方が訪れ楽しめる公園にし、あわじ石の寝屋緑地は地元の方や小学生が訪れ、社会教育的な体験を含めた色々な体験が行える公園にできればと感じる。(伊東委員)
- あわじ石の寝屋緑地の自然環境保全自体をイベント化するなど、マネタイズできる方法も考えてはどうか。島外の方が淡路の自然をエコツーリズムとして、体感できる非常に適した場所である。特定のターゲットに絞り、利用活性化を図ることも一つの手立てとして可能性がある。(澤田委員)
- 自然環境保全と活性化が共存するための仕組みづくりや、来園者数の目標値の適切な設定が今後のあり方検討で重要なポイントとなる。(高田会長)

以上